

1 経営の基本方針

当社は、「病気と苦痛に対する人間の戦いのために」という経営理念のもと、未だ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる独創的な新薬開発を目指し、特定分野に特化した研究開発型国際製薬企業の実現に向けて積極的な努力を続けています。

また、人の生命に関わる医薬品を取り扱う製薬企業としての責任を深く自覚し、法令遵守はもとより高い倫理観に基づき行動するべく、コンプライアンスの一層の強化に努めています。

研究面におきましては、これまで培ってきた当社の技術やノウハウを活かし、今後とも当社の強みを発揮できる領域やバイオ医薬品など当社が保有する遺伝子資産を有効に活用できる領域での医薬品創製を進めるとともに、医療現場の未だ満たされないニーズに即した医薬品創製にも積極的に取り組んでいます。

また、平成20年5月、米国現地法人であるオノ・ファーマ・ユーエスエー インク (以下、

OPUS) に設立したグローバル・探索研究提携本部は、欧米のバイオベンチャーとの創薬提携や大学など研究機関との研究提携を強力に推進することにより、画期的な創薬シーズや世界最先端の技術を取り込み、当社の創薬研究を推進しています。

さらに、新薬候補化合物の導入などライセンス活動に積極的に取り組むことにより、開発パイプラインの拡充に努めています。

開発面におきましては、グローバルに通用する新薬の承認取得を目指し、欧米での承認取得をファーストプライオリティ (最優先) として、海外での臨床開発に積極的に取り組んでいます。

また、新薬開発における国際競争力を一層強化することを目的として、平成20年5月にOPUSにグローバル・開発本部を設立するなど、米国を中心とした海外での臨床開発体制の強化を進めています。

一方、国内での開発につきましては、開発後期段階にある化合物の早期承認に取り組むとともに、開発早期段階にあるプロジェクト

については、国際共同治験や先行する海外臨床試験成績を活用して承認申請するなど、開発スピードを一層早められるよう取り組んでいます。

営業面におきましては、当社医薬品の製品価値を一層向上させるため、研究会や講演会を中心とした学術情報活動を積極的に展開し、多様化する医療関係者のニーズに応えられるよう、常に最新の医学に裏付けされた質の高い情報提供活動の一層の充実に取り組んでいます。

今後とも薬価の改定や医療費を抑制するための諸施策の浸透により、少なからぬ影響を受けるものと思われませんが、新製品の上市と既存品の売上拡大により、安定的な成長の実現に努めていきます。

生産面におきましては、製品の品質保証を最重点課題とし、ハード・ソフト両面の充実と効率的な生産管理体制の整備に一層注力しています。

2 利益配分に関する基本方針

利益配分につきましては、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策の一つと位置づけ、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた成果の配分を行っていきたいと考えています。

また、平成19年度から平成21年度までの3年間は、フリーキャッシュフローをベースに、配当と自己株式の取得を合わせて総還元性向100%を目標にしております。